

米国の核実験実施に抗議する決議

米エネルギー省の国家核安全保障局（NNSA）は、今年4月から6月の間に、米ニューメキシコ州のサンディア国立研究所において、少量のプルトニウムを用いて核兵器の性能を調べる実験を実施したと発表した。これは、「Zマシン」と呼ばれる特殊な装置による、核実験場や爆薬を使わない実験で、このようなプルトニウムを用いた「Zマシン」の実験は、昨年10月から12月にかけて以来である。

オバマ政権は、プラハ演説で核廃絶に向けて米国が積極的な役割を果たすと宣言し、さらに今年6月にはベルリンでの演説で一層の核廃絶に向けた決意を表明したところである。

しかしながら、今回の核実験は、国際社会が積み上げてきた核廃絶に対する努力を無視する暴挙であるとともに、核兵器も戦争もない平和な社会を築こうとする私たちの願いに反する誠に遺憾な行為であり、強い憤りを禁じ得ない。

よって、東大和市議会は、爆発・非爆発を問わず、米国政府が一切の核実験、核開発計画を放棄し、包括的核実験禁止条約の批准を進め、核兵器全面禁止条約の実現のために、直ちに行動を起こすよう強く求めるとともに、世界の恒久平和を願い、非核平和都市宣言をする自治体の市民を代表して、今回の実験に対し強く抗議し、再び実験を行うことのないよう強く求めるものである。

以上、決議する。

（議決日）平成25年9月25日

（送付日）平成25年9月26日

（送付先）駐日米国大使